

障害児出生の原因について

—妊娠時に留意すべきこと—

上野 加央里 (生涯スポーツ学科 地域スポーツコース)

指導教員 金田 安正

キーワード：障害児出生 妊婦の注意点 原因

1. 緒言

全世界では毎年 790 万人もの障害児が誕生しており、全出産数の約 6% を占めている。うち 330 万人が 5 歳までに死亡している。

そこで、障害児出生の原因は何なのか、防ぐことはできないのか、また、将来健康で元気な子どもを産むために、普段から何に気をつけなければならないのか、などの点を明らかにすることを目的とする。

2. 研究方法

からだに有害、特に妊婦の体内汚染に影響を及ぼすと考えられる添加物、有害物質を含む食品や化粧品などの有害性を知らせる書籍を検索し、その中から障害児出生の原因についての関係性を分析した。

3. 結果と考察

障害児出生の原因となる要素が 6 つ挙げられる。

まず 1 つ目は薬。飲む薬の種類、時期、量、期間などにより影響は異なるが、妊娠 3 週の胎児では、中枢神経や心臓への催奇形性のリスクがあり、妊娠 4 週から上肢、下肢、目、耳などに、妊娠 6 週頃からは歯、口蓋、外生殖器などの形の異常が起こる可能性がある。

特にサプリメントなどのビタミン A が危険である。

2 つ目のアルコールは、流産、死産、先天異常が生じる。特に胎児性アルコール症候群が原因で、形態異常などの外見的に明らかなものや、脳性小児麻痺、てんかん、学習障害などがあるが、身体的異常が見られない場合でも重度の行動障害が見られることがある。

3 つ目の喫煙では、多くが先天異常と関係しているが、脳のない新生児が生まれる無脳症は妊婦の喫煙によって発生率は上がる。

4 つ目の放射線は、妊娠 8 週～15 週の間被ばくした人に、特に知的障害の頻度増加、成長・発育の低下などが認められている。

5 つ目の高齢出産であげられる先天異常は、染色体異常である。染色体異常の例としては、ダウン症が代表例といえる。ダウン症児の出生が 25 歳では 1040 人に 1 人に対し、45 歳になると 21 人に 1 人までに出生率は上がる。

そして 6 つ目は添加物だが、添加物には染色体異常や遺伝毒性の可能性を含むものが多い。

4. まとめ

障害児出生の原因としては、医学の進歩で分娩技術の向上に伴い、未熟児など、以前ならば生存できなかった子どもが安全に産まれてくるようになったことで、障害児の出生率が上がり、今まで助からなかった命が助かったということをおおげにすることができる。しかし、親が妊娠時に注意すると防ぐことができるということがわかった。

参考文献

- 鈴木昭平 (2008) 「マイナス 2 歳からの子育て」、ロングセラーズ
- 巻野悟郎 (2011) 「子どもの保健」、診断と治療社
- 森千里・戸高恵美子 (2008 年) 「へその緒が語る体内汚染」、技術評論社